人文社会科学部文化創生課程（中一種「国語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
国語学 （音声言語及び文章表現 に関するものを含む。）	○日本語学 ○日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ	2 2 2	4	・科目名の前に「○」があ る科目は「必修科目」とな ります。 必修科目のうち、書道Ⅰは <u>中一種のみ必修科目</u> です。
国文学 （国文学史を含む。）	○日本古典文学 ○日本近現代文学 ○文学と文化 ○民俗学 ○日本古典文学演習Ⅰ 日本古典文学演習Ⅱ ○日本近現代文学演習Ⅰ 日本近現代文学演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	12	・修得すべき単位数につい ては、下記「☆」印の部分 を参考にしてください。
漢文学	○東アジア文学演習Ⅰ 東アジア文学演習Ⅱ ○東アジア文化と文学 東アジア文学論	2 2 2 2	4	
書道 （書写を中心とする。）	○書道Ⅰ	2	2	
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。）	○国語科教育法 ○国語科授業論 ○国語科教材論 ○国語科教育方法論	2 2 2 2	8	
合 計			30単位	←この他、さらに1単位以上を修 得して「大学が独自に設定する科 目」の単位数に充てる必要があ るので注意してください。

☆中学校の免許状取得を目指す場合、別表第10の必修科目の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む31単位以上の単位修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

人文社会科学部文化創生課程（高一種「国語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
国語学 （音声言語及び文章表現 に関するものを含む。）	○日本語学 ○日本語学演習Ⅰ 日本語学演習Ⅱ	2 2 2	4	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。 ・書道Ⅰは中一種「国語」のみの必修科目です。書道Ⅰの単位は高一種「国語」ではカウントされないのので注意してください。
国文学 （国文学史を含む。）	○日本古典文学 ○日本近現代文学 ○文学と文化 ○民俗学 ○日本古典文学演習Ⅰ 日本古典文学演習Ⅱ ○日本近現代文学演習Ⅰ 日本近現代文学演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2 2	12	・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分をご参考になさってください。
漢文学	○東アジア文学演習Ⅰ 東アジア文学演習Ⅱ ○東アジア文化と文学 東アジア文学論	2 2 2 2	4	
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。）	○国語科教育法 ○国語科授業論 国語科教材論 国語科教育方法論	2 2 2 2	4	
合 計			24単位	←この他、さらに11単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆高等学校の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てるできません。

人文社会科学部文化創生課程（中一種「社会」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法	
日本史及び外国史	○日本史 ○中国史 ○西洋史 ○ユーラシア史 民俗と文化 文化財論 日本考古学 西洋考古学	2 2 2 2 2 2 2 2	8	<p>・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。</p> <p>・科目名の前に「●」がある「地誌A」および「地誌B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。</p>	
地理学（地誌を含む。）	○人文地理A ○人文地理B ○自然地理A ○自然地理B ●地誌A ●地誌B	2 2 2 2 2 2	10		
「法学，政治学」	○公法学 ○私法学 行政学 憲法 民法	2 2 2 2 2	4		
「社会学，経済学」	○社会学 ○ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ ○マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 社会心理学	2 2 2 2 2 2	6		
「哲学，倫理学，宗 教学」	○思想と文化 ○日本倫理思想 西洋倫理思想 東アジア思想 日本倫理思想演習Ⅰ 日本倫理思想演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2	4		
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。）	○社会科教育法 ○社会科授業論 ○中等社会・地理歴史科 授業構成論 ○中等社会・公民科授業 構成論	2 2 2 2	8		
合 計			40単位		

※必修科目を含み28単位以上を修得してください。ただし、必修科目のみ修得の場合でも40単位修得となり、別表第10の必修科目を含む所要単位数59単位以上を修得できるような設定になっています。

人文社会科学部社会経営課程（中一種「社会」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
日本史及び外国史	○日本史 ○中国史 ○西洋史 ○ユーラシア史 民俗と文化 文化財論 日本考古学 西洋考古学	2 2 2 2 2 2 2 2	8	<p>・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。</p> <p>・科目名の前に「●」がある「地域地理学A」および「地域地理学B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。</p>
地理学（地誌を含む。）	○基礎地理学A ○基礎地理学B ○環境地理学A ○環境地理学B ●地域地理学A ●地域地理学B	2 2 2 2 2 2	10	
「法律学，政治学」	○公法学 ○私法学 行政学 憲法 民法	2 2 2 2 2	4	
「社会学，経済学」	○社会学 ○ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ ○マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 社会心理学	2 2 2 2 2 2	6	
「哲学，倫理学，宗 教学」	○思想と文化 ○日本倫理思想 西洋倫理思想 東アジア思想 日本倫理思想演習Ⅰ 日本倫理思想演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2	4	
各教科の指導法（情報通 信技術の活用含む。）	○社会科教育法 ○社会科授業論 ○中等社会・地理歴史科 授業構成論 ○中等社会・公民科授業 構成論	2 2 2 2	8	
合 計			40単位	

※必修科目を含み28単位以上を修得してください。ただし、必修科目のみ修得の場合でも40単位修得となり、別表第10の必修科目を含む所要単位数59単位以上を修得できるような設定になっています。

人文社会科学部文化創生課程（高一種「地理歴史」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
日本史	○日本史 ○日本考古学 ○文化財論 民俗と文化	2 2 2 2	6	<ul style="list-style-type: none"> ・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。 ・科目名の前に「●」がある「地誌A」および「地誌B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。
外国史	○中国史 ○西洋史 ○ユーラシア史 ○西洋考古学	2 2 2 2	8	<ul style="list-style-type: none"> ・以下の科目は教育学部開講科目です。 ・自然地理学基礎演習 ・地理学巡検Ⅰ ・地理学巡検Ⅱ
人文地理学及び自然地理学	○人文地理A ○人文地理B ○自然地理A ○自然地理B 自然地理学基礎演習 地理学巡検Ⅰ 地理学巡検Ⅱ	2 2 2 2 2 1 1	8	<ul style="list-style-type: none"> ・社会経営課程の学生は、以下の科目を次のとおり読み替える。 「基礎地理学A」を「人文地理A」に読み替える。 「基礎地理学B」を「人文地理B」に読み替える。 「環境地理学A」を「自然地理A」に読み替える。 「環境地理学B」を「自然地理B」に読み替える。 「地域地理学A」を「地誌A」に読み替える。 「地域地理学B」を「地誌B」に読み替える。
地誌	●地誌A ●地誌B	2 2	2	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○地理歴史科教育法 ○中等社会・地理歴史科授業構成論 社会科教育法 社会科授業論	2 2 2 2	4	<ul style="list-style-type: none"> ・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分を参考にしてください。
合 計			28単位	←この他、さらに7単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆高等学校の「地理歴史」の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。**必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。**

☆中学校「社会」免許状取得を同時に目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む27単位以上の単位修得が必要です。

（社会の必修科目を修得している（地誌はどちらか一方のみを修得していると仮定した）場合、24単位修得済みとなります。他に必要な地歴の必修単位を合わせると32単位となりますので、別表第10の科目と合計すると59単位の必要単位を満たすことができます。）

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てることができます。

人文社会科学部社会経営課程（高一種「公民」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）」	○公法学 ○私法学 ○憲法 行政学 民法	2 2 2 2 2	6	<p>・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。</p> <p>・科目名の前に「●」がある「西洋倫理思想」、および「東アジア思想」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。</p> <p>・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分を参考にしてください。</p>
「社会学，経済学（国際経済学を含む。）」	○社会学 ○ミクロ経済学Ⅰ ミクロ経済学Ⅱ ○マクロ経済学Ⅰ マクロ経済学Ⅱ 社会心理学	2 2 2 2 2 2	6	
「哲学，倫理学，宗教学，心理学」	○思想と文化 ○日本倫理思想 ○哲学倫理入門 ●西洋倫理思想 ●東アジア思想 日本倫理思想演習Ⅰ 日本倫理思想演習Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2	8	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○公民科教育法 ○中等社会・公民科授業構成論 社会科教育法 社会科授業論	2 2 2 2	4	
合 計			24単位	

☆高等学校の「公民」の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

☆中学校「社会」免許状取得を同時に目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む29単位以上の単位修得が必要です。

（社会の必修科目を修得している場合、20単位修得済みとなります。他に必要な公民の必修単位を合わせると28単位となるので、合計59単位にするためには、残り3単位以上単位を修得する必要があります。）

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てることができません。

人文社会科学部文化創生課程（中一種「英語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
英語学	○英語学A 言語文化論	2 2	2	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。
英語文学	○英米文学A ○英米文学B ●文学基礎論A ●文学基礎論B	2 2 2 2	6	・科目名の前に「●」がある「文学基礎論A」および「文学基礎論B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。
英語コミュニケーション	○グローバルコミュニケーション論A グローバルコミュニケーション論B ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英語コミュニケーションC ○英語コミュニケーションD 英語コミュニケーションE 英語コミュニケーションF	2 2 2 2 2 2 2	10	・各教科の指導法について受講の際には必ず「*1」「*2」の順番で受講してください。 ・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分を参考にしてください。
異文化理解	○アメリカ・オセアニア地域学A ○アメリカ・オセアニア地域学B	2 2	4	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○英語科教育法*1 ○英語科授業論*2 ○英語科教材論 ○英語科教育方法論	2 2 2 2	8	
合 計			30単位	←この他、さらに1単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますので注意してください。

☆中学校の免許状取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む31単位以上の単位修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますので注意してください。

（上記表の必修科目の総単位数は30単位（選択必修はどちらか一方を修得したと仮定）となります）

人文社会科学部文化創生課程（高一種「英語」）

教科に関する 専門的事項	授 業 科 目	履修可能 単 位 数	必修取得 単 位 数	備考および修得方法
英語学	○英語学A 言語文化論	2 2	2	・科目名の前に「○」がある科目は「必修科目」となります。
英語文学	○英米文学A ○英米文学B ●文学基礎論A ●文学基礎論B	2 2 2 2	6	・科目名の前に「●」がある「文学基礎論A」および「文学基礎論B」は選択必修科目です。どちらか一方は必ず単位を修得する必要があります。
英語コミュニケーション	○グローバルコミュニケーション論A グローバルコミュニケーション論B ○英語コミュニケーションA ○英語コミュニケーションB ○英語コミュニケーションC ○英語コミュニケーションD 英語コミュニケーションE 英語コミュニケーションF	2 2 2 2 2 2 2	10	・各教科の指導法については受講の際には必ず「*1」「*2」の順番で受講してください。 ・修得すべき単位数については、下記「☆」印の部分をご参考になさってください。
異文化理解	○アメリカ・オセアニア地域学A ○アメリカ・オセアニア地域学B	2 2	4	
各教科の指導法（情報通信技術の活用含む。）	○英語科教育法*1 ○英語科授業論*2 英語科教材論 英語科教育方法論	2 2 2 2	4	
合 計			26単位	←この他、さらに9単位以上を修得して「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てる必要がありますのでご注意ください。

☆高等学校の免許状のみ取得を目指す場合、別表第10の必修科目の必修科目の単位修得の他に、上記科目のうち、全ての必修科目を含む35単位以上の修得が必要です。必修の単位数のみですと不足しますのでご注意ください。

（上記表の必修科目の総単位数は26単位（選択必修はどちらか一方を修得したと仮定）となります）

☆中学校の免許状を同時に目指す場合、中学校の取得条件を満たしていれば単位は不足しません。

[「道徳の歴史と方法」について]

「道徳の歴史と方法」の単位は、高一種免許状では「大学が独自に設定する科目」の単位数に充てることはできません。